

## 平成28年度 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 平成28年7月5日（火） 午前10：00～正午

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：林大樹、秋山滋雄、岡本和子、長谷川浩司、関克巳、長崎進、  
内田浩、永沢映、鵜沢哲雄、杉本孝一郎、笹渕敏子

頼高英雄市長

事務局：川崎文也（総務部長）、根津賢治（総務部次長兼政策企画室長）  
田熊純也（政策企画室長補佐）、吉田圭介（政策企画室主事）  
森本悠理（政策企画室主事）

### ■次 第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 自己紹介
4. 会長選出
5. 議題
  - (1) 会議の公開について
  - (2) 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について
  - (3) 地域活性化・地域住民等緊急支援交付金（地方創生先行型）の検証について
  - (4) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について
  - (5) その他
6. その他

### ■内 容

【市長あいさつ】

【自己紹介】

【会長選出】

会長に林委員を選出。

## 【議題】

### (1) 会議の公開について

事務局から、会議の公開について概要を説明した。(資料3・4参照)

⇒会議の公開について、資料3「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料4「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議の傍聴にかかる取り決め(案)」のとおり取り扱うことで了承した。

### (2) 蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について

事務局から、蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について説明した。  
(資料5参照) その後、次のとおり質疑応答を行った。

委員：資料の⑥、人口の将来展望の現状をみると社人研の推計や日本創生会議の推計と大きく離れているがその理由はどういうものか。

事務局：社人研及び、日本創生会議の推計は、出生率や女性の人口を算定基礎の一つとしており、蕨の出生率は国や県の平均と比較しても低いため、その影響が大きい。しかし、蕨市は都心に近く交通利便性が高いなどの特性があるため、今後も若い世代を中心に社会増が続くと考え、2040年においても人口が維持されるという推計を行った。

委員：資料の⑤、転入・転出状況をみると川口市、東京都北区からの転入超過、戸田市、さいたま市浦和区への転出超過が見られるが、その理由を調べるためにアンケートやヒアリングなどの調査を実施しているのか。

事務局：昨年の転入・転出状況では、今年、転入超過の1位である川口市が転出超過の1位であった。近隣自治体間の移動者数は多いため、必ずしも毎年同じ結果になるわけではないと考えている。転出超過、転入超過については理由の分析と傾向を把握していく必要があると考えている。

委員：なぜ、蕨から転出してしまうのかというところを把握し、蕨に長く住んでもらうようにすることがポイントであると思うので、是非、理由を把握してもらいたい。

会長：転入・転出状況について、若い世代等の流動的な人数と住居を購入した人等の定住的な人数の内訳が分かれば、新たな傾向が分かるのではないか。

事務局：蕨は市域全体が駅から近く、地価が県内でも高いため、ファミリー層向けの住宅よりも、単身者向けの賃貸マンションが多い傾向にある。そのため、蕨に住んでいた単身者が、結婚や出産を機に転居を考えると、蕨市内では近隣市と同じような値段ではファミリータイプの物件が見つからず、戸田や川口の郊外に転出する、というケースも考えられる。

- 委員：住宅ローン等の状況をみると、蕨市内には空いている土地も少ないことから、建売住宅の購入件数はこのあたりでは川口が一番多い。また、蕨市に転入する人は単身者が多く、ワンルームマンションの新築も増加している。
- 委員：資料の④、外国人人口について、テレビ番組で蕨市にはクルド人が多く住んでいるというのを見たが、そういった人数はこの表に入っているのか。入っていない場合、何人ぐらい住んでいるのか。
- 事務局：クルド人について、市内に何人住んでいるかは把握していない。クルド人の新年祭が蕨市民公園で行われていることや、蕨駅東口周辺で多くの外国人を見かけることから、蕨に住んでいるというイメージがあるようだが、民間団体からの情報に寄れば川口市に多く住んでいるようである。
- 委員：クルド人の多くはトルコ国籍であるが、蕨にトルコ国籍の人は少ない。また、最寄りの駅は蕨駅であっても、川口市に多く住んでいる。
- 委員：クルド人を支援している方に話を聞いたことがあるが、健康保険がないため病院に行けず困っていたのを助けたことがきっかけで支援を続けているという話だった。支援をしている組織もあるが、駅前にたむろしているのが怖いという声も聞いたことがある。また、市立病院に行くと外国人の方が非常に多く、蕨は外国人が多いと感じている。
- 事務局：クルドは民族の名称のため、単純に国籍で人数の把握はできない。住民登録上で、トルコやイラン、シリアなどのクルド人がいる国の人数を見ると蕨市に住んでいる方は少ない。外国人全般について言えることだが、コミュニケーションがうまく取れれば、外国人というだけで怖いと感じる人も少なくなると思う。市としても日本人と外国人とのより良い交流ができればいいと考えている。

### **(3) 地域活性化・地域住民等緊急支援交付金（地方創生先行型）の検証について**

事務局から、地域活性化・地域住民等緊急支援交付金（地方創生先行型）の検証について説明した。（資料6参照）その後、次のとおり質疑応答を行った。

- 委員：兄弟で保育園が分かれてしまっているケースがあると聞いている。親にとって大きな負担となるが、市では把握しているか。また、市内で出産できる施設は市立病院しかないが、蕨生まれ蕨育ちを増やし、蕨への愛着を育むためにも、出産できる場所を増やすことを検討してほしい。
- 事務局：現在、認可保育園を増やし、希望者の皆さんに保育園に入ってもらうことを優先している。兄弟が別々の保育園に通園していて、どちらかの保育園に合わせて通わせたい場合、希望する園に空きが出た際には、そうした事情も考慮している。産婦人科の医師の確保は難しい面があるが、市立病院

は唯一市内で出産できる病院ということもあり、市としては力を入れ、出産の後押しをしたいと考えている。出産できる場所を増やすことについては、医療施設の配置は県レベルで行ってもなかなかうまくいかないのが現状である。

#### (4) 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

事務局から、蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について説明した。

(資料6参照) その後、次のとおり質疑応答を行った。

#### □基本目標Ⅰ 安全で安心して暮らせるまち

##### (1) ほっとわらび! 安全安心プロジェクト

委員：町会では、自主防災会による防災対策を進めている。昨年より、消火栓に直接ホースをつないで消火を行うことのできるスタンドパイプの配備が開始されたが、実際に役立てるためには訓練が必要であり、できるだけ早い段階で自主防災組織による防災訓練の実施率を100%にしたい。また、家具の転倒防止について、熊本地震の影響で転倒防止器具が品薄になっているようだが、こういった対策を密に行うことで減災につなげていきたい。防犯灯のLED化についても行政と町会で協働して進めている。着々と防災・防犯対策は進んでいるが、災害はいつ起きるかわからないため、減災に繋げるためには早期の対策が重要である。また、熊本地震ではトイレの問題が起きており、地震の際には衛生面からも各家庭に簡易トイレを備えてもらうことが重要であるため、町会では行政と市民の間に立って、簡易トイレの各家庭への設置を進めている。

委員：犯罪発生件数は減少しているが、犯罪発生率は県内の自治体では何位か。  
委員：昨年は大宮区がワースト1だが、その前は蕨だったと聞いている。今年の6月に市と警察と町会で「蕨市犯罪情報の住民提供等に関する協定」を締結した。大きな犯罪は協定に基づき早急に市民へ情報提供を行い未然に防ぐことができると考えている。蕨の犯罪は自転車盗が非常に多いため、そこに力を入れることで順位を下げたいと考えている。

委員：犯罪発生率県内ワースト1の自治体に住みたい人は少ない。安全・安心は最高のブランドだと思う。順位が大きく下がるのであれば、自転車盗の防止に力を入れることは必要なことである。犯罪発生率が低い地域はどのあたりなのか。

事務局：人口が少ない地域は犯罪発生率が低い傾向が見られるが、都市部でも犯罪発生率が低い自治体もある。また、平成27年の犯罪発生件数991件の

うち約400件が自転車盗である。

委員：小学校の周辺で不審者に追いかけられた等の事案はこの件数に入るのか。ここ数週間、頻繁に不審者についてのメールが届く。自治会の方などに見回りをしてもらっているが、それでも多くの事案が発生している。何か対策を考えなくてはいけないのではないか。

事務局：不審者がいるということだけでは、犯罪発生件数に入らない。学校からの不審者情報や、警察からの犯罪情報を早急に市民に知らせ犯罪を未然に防いでいきたいと考えている。都市部では犯罪が多いというのは避けられない部分もあるが、防犯パトロール等、市民との協働により犯罪を少しでも減らしていきたいと考えている。

委員：転入者増ということを考えるなら、犯罪発生件数という指標の他に犯罪発生率の順位を下げるというのも指標として加えてもよいのではないか。

事務局：転入者から選ばれるために、安全安心というのは重要な要素であり、まちのシティプロモーションの面からも改善していかなければならない。担当課も順位を意識して対策を進めている。

委員：犯罪の質についても考えていただきたい。自転車盗と子どもが襲われるとといったものは全く違うものである。犯罪を減らし住みやすいまちだとアピールできるようにしていただきたい。

委員：今回、蕨市の議会においてBCPや耐震の問題が話題になっていたが、現状はどうなっているのか。また、蕨市の職員が熊本に派遣されているが、派遣された職員から現場での印象などを聞ける機会があるとよいと思う。耐震については財政的な問題もあることから、すぐに対策ができるものではないと思うが、なにかソフト面での対策はないだろうか。

事務局：熊本県益城町に職員を2名派遣し、先週末に帰ってきた。来週に報告会を開く予定であるが、話を聞いたところ、役場の被害が大きく、使用できない等、大変な状況だという話であった。報告については機会があればお知らせしたいと考えている。

BCPとは業務継続計画のことであり、災害時が起こった場合、どのように業務を継続していくかという計画であり、蕨市も今年度中の策定を目指している。公共施設の耐震化については、昨年、市の公共施設の現況を把握する「蕨市公共施設等マネジメント白書」を作成し、今年度は、各公共施設を今後どのように管理していくかを示す「公共施設等総合管理計画」を策定中である。個別の施設については、総合管理計画の方針を受けて検討していくことになるが、庁舎については、庁内で検討を始めている。

## □基本目標Ⅱ 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち

### (2) キラリわらび！子ども未来プロジェクト

- 委員：小学校ではアウトメディアを推進しているが、ビデオを教材として使っている現状もある。映像に接触するのは大きくなってからでも良いと思うので、妊婦を対象に生まれる前からのアウトメディアを進めたらどうか。
- 委員：アウトメディア推進会議の委員をやっている。講演会の開催などアウトメディアの普及を進めているが、お母さんたちの意識はそれぞれ違い、例えばメディアがないと子ども同士もコミュニケーションがうまく取れないと考える方もいる。また、ベビーカーに乗りながらスマートフォンを触っている赤ちゃんや、レストランで子どもがご飯を食べているときにずっとスマートフォンを触っている親を見かけることがあり、コミュニケーション能力の低下を心配している。
- 委員：メディアを一度渡してしまうと子どもはまた触りたくなくなってしまう。小学校からではなく、もっと早い段階でアウトメディアの意識を根付かせていく必要がある。学校からのお知らせもメールで送られてくるが、直接会話することがもっと必要であると思う。乳児家庭訪問の際、保健師に直接アウトメディアについて話してもらうのも一つの手だと思う。
- 事務局：妊娠中の夫婦を対象に今年度より行うイクメン講座の中では、メディアが育児に与える影響について考えるグループワークを行う予定である。

## □基本目標Ⅲ みんなにあたたかく健康に生活できるまち

### (3) イキイキわらび！健康密度日本一プロジェクト

- 委員：市立病院について、長年の赤字から脱却し、近年は単年度黒字になったようだが、病床が空いていると聞いた。また、資料に小児科常勤医を採用したとあるが、子どもの病気は24時間いつでも起こりうるため、午後の診療を行わないのは意味がないと思う。市立病院があるのに、多くの市民が戸田中央総合病院に行ってしまう。
- 事務局：まず、医師確保が課題だと聞いている。公立病院のため、高額な報酬で医師を集めることは難しい。小児科については、基本的に午後の診療も行っている。また、病院の設備や規模、診療科目なども異なることから、他の病院と一概には比較できない部分もあると思う。蕨市と同程度の人口規模で公立病院を運営している自治体は少なく、市内に公立病院があるというのは安心感という面では大きなものがあるのではないかと考えている。
- 委員：市内に小児科医が少ないように思う。小児科医の数や同規模の自治体との比較資料などはあるか。

- 事務局：小児科医のなり手が少なくなっており、小児科医の確保は難しい状態である。国レベルで小児科医の待遇改善などの対策が必要であり、蕨市単独での解決は難しい。また、蕨市は都市部に位置するため、広域的な視点での利用も考えられる。
- 委員：蕨に住めば、子どもが病気やけがをしても、エリア内にこれだけの小児科があり適切な医療が受けられるというのはシティプロモーションという面からも有効であると思う。
- 委員：土日を含め、午後6時半まで診療を行っている民間の小児科もあるため、手薄な夜中の時間帯に小児科医を配置するのも一つの手になると思う。
- 事務局：土・日・祝日や休日の夜間については、基本的に市立病院の小児科において救急診療を行っている。
- 委員：銀行で医療モールを誘致するときも小児科医と産科医はなかなか出てこない。市立病院も確保には相当苦勞していると思う。しかし、皆さんの意見ももつともであり、難しい問題と感じる。
- 委員：市内でもいくつか、長い時間診療を行っている病院もあるので、そういった情報をまとめて公開するとよいと思う。

#### □基本目標Ⅳ にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち

##### (4) ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト

- 委員：蕨ブランド認定については、今年度から開始される。おそらく目標数は達成できると思うが、それよりも優良な新しい蕨のブランドをどう作るかという質の問題が重要である。創業者数についても、ただ創業すればいいのではなく、いかに継続・発展できる事業者を開拓できるかが重要である。
- 市内ですべてを充足させる方向に意識が行きがちだが、実際に子育て世代の方に話を聞くと、戸田市や川口市の病院やショッピングセンターを利用している方もいる。蕨に住んでいる満足度を考えた時に、近隣市の施設の利用も含めた暮らしやすさをどう考えていくかというところが重要である。そのため、近隣市との連携や、近隣市の施設状況を総合的に考えたまちづくりが必要であり、そういったことがうまくいけば、蕨駅前が大開発されなくても、満足度が上がることが考えられる。
- 委員：旧中山道沿いには旧家が残っており、非常に雰囲気がいいため、一度見学したいと思っている。そういった建物を見せていただくという取り組みも面白いのではないかと。
- 委員：旧中山道のお宅に設置されている跳ね橋を下したところも見てみたいと思う。

委員：江戸時代は浦和や大宮より栄えていたので、その頃の資源をもっと大々的にPRしてはどうか。千葉県香取市の佐原では各家に伝わるひな人形をそれぞれの家で公開するイベントを行っている。蕨でもこのように人がまちなかを回遊する取り組みができれば面白いと思う。

## □基本目標Ⅴ 快適で過ごしやすく環境にやさしいまち

### (5) 住マイルわらび！暮らし快適プロジェクト

委員：錦町に住んでいるがバスが少ないと感じている。特に保育園の送り迎えは雨が降っていると大変なので、保育園の近くにバス停を設置してほしい。また、ぷらっとわらびの最終便は6時台に終わってしまうが、もう少し遅くまで運行してくれると助かる。

事務局：ぷらっとわらびに関しては色々なご要望を頂いているが、新しいルートについては法律や車両の手配など課題が多い。ただ、要望が多いというのは期待の表れでもあるので、期待に応えられるように努めていきたい。

委員：蕨市役所の耐震性が低いとテレビでやっていたが、対策の検討はしているのか。

事務局：これまでも、建物の層崩壊を防ぐ工事などを実施してきたが、庁舎の耐震化についての具体策を現在、検討している。

## □基本目標Ⅵ 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち

### (6) わがまちわらび！市民が主役プロジェクト

委員：協働事業提案制度について、なるべく申請書類を平易にし、市役所やわらび市民ネットで申請書を確認するといった工夫をしているが、一過性のイベントの提案がほとんどで継続的な提案が少ない。また、蕨くらいの人口規模であれば年間10件から15件の提案があってもよい。申請書の書き方等は市役所等でサポートしているので、皆さんの中でもよさそうなものがあれば提案していただきたい。蕨は地域活動が活発ではあるが、お金をもらって行うという意識が少なく、現状維持で良いというところも多いが、ステップアップするいい機会になるので、もっと多くの応募を期待したい。

## 【その他】

事務局より、今回頂いた意見を意見書としてとりまとめ、林会長より市長に提出することを説明した。

以上